

平成 30 年度 関西女子短期大学 入学宣誓式 学長式辞（全文）

学長の大嶋です。新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。教職員一同、歓迎いたします。また本日、ここにご入学の良き日をお迎えになられたことを、心からお祝い申し上げます。ご家族の皆様におかれましても、これまで育てられた18年間の毎日を思い出されますと、その喜びは言葉では表せないほどに大きく、すばらしいものと拝察いたします。誠にありがとうございます。また、ご来賓の皆様におかれましては、年度始めのお忙しい時期に、本日のこの式典にご臨席賜りまして、誠にありがとうございます。心からお礼を申し上げます。

式の最初に歌いました学園歌に、二上山という言葉が出てきます。二上山は大学から見ると東南の位置にある海拔500mほどの2つの峰を持つ美しい山です。この山の高い方の峰（雄岳：おだけ）に天武天皇の皇子である大津皇子が祀られています。この大津皇子、万葉集に4首の歌を残しています。その1つに、「あしひきの 山のしづくに 妹待つと 我立ち濡れぬ 山のしづくに」という歌があります。これは石川郎女（いしかわのいらつめ；いらつめとは怖そうな名前ですが、これは娘という意味で、石川さんちのお嬢さん）に対する恋歌（こいうた）で、「山の雫が落ちてくる所であなを待っていました。ずっと待ち続けていたので、すっかり濡れてしまいました」という待ちぼうけの歌です。これに対して石川郎女（いしかわのいらつめ）の唱和した歌が、「我（わ）を待つと 君が濡れけむ あしひきの 山のしづくに ならましものを」です。「私を待ってあなたが濡れてしまったという、その山のしづくになって、あなたに寄り添っていたかったのに」という歌です。この恋歌（こいうた）を歌った大津皇子が祀られている二上山に登る企画が毎年秋にあります。一度は、この歌を思い出し、石川郎女（いしかわのいらつめ）の気持ちになって登られることを、お薦めします。

今日、皆さんは、『建学の精神 [感恩] を体し、専心、勉強、修養に努めます』と誓われました。この建学の精神『感恩』とは、本学が学生を教育してどのような人に育てるのかという教育の基本理念を表した言葉です。『感恩』と聞くと難しいと思われるかもしれませんが、常に感謝の気持ちをもって、笑顔で「ありがとうございます」という言葉が自然と出る学生になっていただきたいと思っています。



関西女子短期大学は今年、創立 53 年目を迎えます。1965 年に保育科と家政科の 2 学科と付属幼稚園からなる玉手山女子短期大学という名で産声をあげ、その翌年に関西女子短期大学に改称されました。以降、『関女』の愛称で親しまれていますが、現在は保育学科、養護保健学科、歯科衛生学科、医療秘書学科の 4 学科で運営されています。保育学科では保育士や幼稚園教諭、養護保健学科では養護教諭や中学校教諭、歯科衛生学科では歯科衛生士、医療秘書学科では医療秘書士や秘書士という専門職員を養成することをその教育目的にしています。皆さんは、本学において専門職に必要な知識と技術だけでなく、それをさらに発展させる判断力や表現力を身に付けたいと考えておられると思います。

本学では、専門職に必要な知識と技術の基本を 2 年間あるいは 3 年間をかけて教育し指導いたします。この基本をマスターすれば専門職の資格を得ることができます。しかし専門職の資格があれば専門職の仕事が満足にできるものではありません。専門職の対象となる人がすべて同じではないからです。対象それぞれに応じて適切に対処するのが専門職員です。どのような対象に対しても、最高の対応ができるようになるには、多くの経験とさまざまな試行錯誤が必要となります。本学に在籍中に、専門職に必要な知識と技術の基本をマスターするだけでなく、多くの経験と感動をしていただきたいと思います。

大正時代の詩人山村暮鳥の詩に「いちめんのなのはな」があります。正式には「風景純銀もざいく」という題ですが、「いちめんのなのはな」で知られています。ひらがなで 9 文字の「いちめんのなのはな」を 7 回繰り返した後、8 行目に「かすかなるむぎぶえ」という 1 節が入り、その後「いちめんのなのはな」の 1 行が入り、これで最初の連が終わります。この後、2 つの連があり、それもこれと全く同じ構成で、「いちめんのなのはな」を 7 回繰り返した後、8 行目にそれぞれ「ひばりのおしゃべり」、「やめるはひるのつき」が入ります。

ひらがな 9 文字が 27 行連なった「いちめんのなのはな」づくしの詩です。私が大学の 2 年生になった春休みに（もう 50 年も昔ですが）、徳島県の吉野川の中流域に旅行した事があります。その時、吉野川の堤の周辺が、まさしくこの一面の菜の花に包まれていました。黄色い花に緑の葉、それが真っ青な空に映えて、言葉に表せない美しさでした。山村暮鳥のこの「いちめんのなのはな」の詩を知った時、すぐにあの吉野川の景色を思い出しました。

あの時の感動が私の脳裏に刻み込まれ、それがすぐに引き出された感じでした。この心に刻まれる感動というのは若い時にしかありません。皆さんには、関西女子短期大学の学生であるうちに美しいものや素晴らしいことを体験して、感動していただきたいと思います。若い頃の感動は一生心に残り、貴女方のこれからの活動の原点になります。若い頃に多くの新しいことを経験し、感動していただきたいと思います。

今日から皆さんは短期大学生としての生活を始めることとなりますが、これまでの高校生とは全く異なる学生生活を送ることになることを知っておいて下さい。一昨年から18歳になると選挙権が与えられることになりましたが、法的には20歳まではまだ未成年となっています。しかし大学生になりますと、社会では貴女方を成人として対応されると思います。大人として対応されることは貴女方にとってはうれしいことかもしれませんが、大人には大きな義務と責任の伴うことを知っておいて下さい。これまでは、貴女方のされたことは、すべて親のしつけとか教育のせいとかにされてきました。しかしこれからは、貴女方が行なうすべてのことが貴女方自身の責任になり、それがすべて貴女たちの人としての評価の対象になります。周りの大人たちは、あなた方の日頃の行動や言動を聞いて、貴女方がどのような人間であるのかを常に評価していることを知っておいて下さい。

最後にお願ひがあります。専門職になると、職業に関連する多くの困難や障害に遭遇します。その時に、同じ職業に就いている親しい同級生の存在は、本当に頼りになります。仕事の悩みを打ち明けるだけでその悩みが解消することもありますし、解決策を suggestion してくれることもあります。本学で学ぶ2年間あるいは3年間の間に、同級生の親しい友人、ベストフレンドを作っていたいだきたいと思います。同じ専門職を志す親友を作るのも、本学に来た目的の1つとご思ってください。

新入生の皆さん、平均的に言いますと、貴女方はあと70年は生きることになります。この70年が実りあるものになるかどうかは、この大学での2年あるいは3年間と、それに続く10数年間をあなたたちがどう生きるにかかっています。これからの20年間は、よく考えて生きてください。

今日から貴女たちは関西女子短期大学の学生です。まずは、これからの2年間あるいは3年間で有意義に過ごされ、卒業式の日、この大学で学んでよかったと満足できる毎日を過ごされることを祈念して、私の式辞といたします。ご入学、おめでとうございます。

平成30年4月2日

関西女子短期大学 学長 大嶋 隆